

2026年1月

白井なおこ レポート VOL.30

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2026年1月15日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



日野・生活者ネットワーク
日野市議会議員
白井なおこ

100年先の市民も確認できる 公文書管理を！

それはどのような過程を経て決まったのか。意思決定のプロセスが記録として残っていなければ、検証が難しくなります。日野市では元副市長問題を教訓に、コンプライアンス（法令順守）の強化等、様々な再発防止策が図られています。**文書事務改革**もそのひとつです。それを前進させるためにも、**公文書管理条例**の制定を求めました。

ないものは公開できませんから、**情報公開と公文書管理は車の両輪**です。情報は市民の財産です。また、適正な公文書管理は職員を守ることもつながります。日野市には情報公開条例はありますが、公文書管理は条例ではなく「文書管理規則」であり、その目的は事務の能率的運営です。市民に対し、同じ約束ごとの中で運用されてしかるべきではないでしょうか。

現在の規則では、**30年という保存区分や歴史的文書の規定**がないため、10年を超えた公文書が一緒に永年保存されています。市も課題として認識しており、来年度より関係部署で協議を開始する予定とのことでした。



市長からは「公文書は市民の、組織の財産。100年後の市民が見ても確認できる状況を」という言葉がありました。それを具現化するためにも条例化を強く求めました。

地域と共生するデータセンターを！

現在、市内2ヶ所でデータセンター（DC）建設が予定されており、大量の電力を使用することから、**様々な環境影響が懸念**されています。昨年はDCの環境影響を

減らすよう、関係省庁へヒアリングと要請活動を行い、今年はDC学習会の開催や参加、他市のDC視察に伺うなど、地域と共生できるDCとは何かを考え続けてきました。

開発についてはまちづくり条例に、環境影響については環境基本条例に沿ってすすめられています。しかし、ハコモノがどのように運用されるかは、切っても切り離せないものです。今ある仕組みの中で何ができるか。様々なステークホルダー（利害関係者）が一堂に会し協議する場がもてないか。**環境審議会に関係者として事業者の参加を求める**ことが

できるかを確認したところ、**可能である**という答弁でした。もちろん決めるのは審議会ですが、協議を記録として残していく上でも進めてほしいと考えます。



白井市では集合住宅の目の前にDCが建設中

なおこ目線の👁️トピックス

2025年12月の議会より

●公園等のベンチ更新

公園や駅前広場のベンチを耐久性のある樹脂のもの（1基約40万円）に更新するため、約3300万円の補正予算がありました。まだまだ更新すべきベンチは多数あります。今後は東京都のベンチ寄付事業などを参考に、財源確保と市民がまちづくりに参加できる仕組みを提案しました。（賛成）

●高校生奨学金制度の廃止

昭和30年からはじまった日野市独自の事業で、対象世帯の高校生に修学の援助をするため月1万円を支給する制度です。高校授業料無償化や児童手当の拡充等により、目的を達成したとの判断で今年度で廃止するという議案がありました。一定の理解はするものの、今この物価高です。せめて子どもの貧困対策の基本方針の次期改定までは継続し、代替案で切れ目ない支援とすべきと訴えました。（反対）

